

レスリング選手の性格特性  
平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼ロンドン五輪選考会  
ーK大学及び、OBの試合前後の情緒変化と競技成績の関係についてー

Characteristic traits of wrestlers at K-University  
-The case of the All-Japan Emperor's Competition in 2011

滝山 将 剛\*, 和田 貴 広\*, 嘉 戸 洋\*\*

Yukitaka TAKIYAMA\*, Takahiro WADA\* and Hiroshi KADO\*\*

ABSTRACT

There is a general consensus that characteristic traits of wrestlers play an important role in peak performance, and reproducibility of this important factor was very high. Then, to confirm these previous findings, in the present report, ten wrestlers at K-University in the All-Japan Emperor's Competition in 2011 were tested using the same previous methods for testing characteristic traits (Y-G characteristic test). The Y-G characteristic test was performed three times (before, the day before competition, and after competition). The results showed that five wrestlers were D-type (50%) and five wrestlers were A-type (50%). There are no other characteristic trait types. In particular, D-type wrestlers showed good performance in competition. These relationships between performance in competition and characteristic traits were reproducible and confirmed our previous findings. Taking the present results and previous experience together, it is suggested that characteristic traits of wrestlers play an important role in peak performance, and that we have to consider both mental and physical factors for effective training methods.

*Key words; Wrestler, Y-G characteristic test, Before competition*

I. は じ め に

競技者が最高のパフォーマンス (Performances ;  
ここでは勝敗を意味する) 発揮する  
要因は多種多様である。その要因を大まかに分

類すると、競技者の身体的側面 (体力、技能、技  
術など) に関わる要因と、心理的側面 (情緒、気  
力、性格) に関わる要因に分けることが可能であ  
る。筆者らは、レスリングの競技力向上を図る目  
的でこれらの要因の中から特に情意的側面として

\* 国士舘大学体育学部 (Faculty of Physical Education Kokushikan university)

\*\* 環太平洋大学 (International pacific university)

「精神力」を取り上げてきた。これは、各種目において共通する要因であるが、ことに対人種目である格闘技においては、究極の場面において勝敗の決定に及ぼす比重が極めて高いことを常日頃痛感しているからである。今日まで筆者らは、情意的側面を客観的に解析する目的で性格検査として広く受け入れられ、信頼性の高さと定評のある、矢田部・Guilford性格検査（以下YG検査という）を使用して、試合直前に動揺しやすい選手の内面を把握することに成功した。これは、競技者の心理的変化が顕著に起こると考えられる実際の競技場面の直前でYG検査を実施し、同じ条件下での性格類型の者が、どのような情意的変化を来すかについて調査した<sup>1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 10) 11) 12)</sup>。その結果、今まで漠然と、しかも経験的に捕らえられていた競技者の試合直前の情緒的変化が、実際の試合結果と大きな関わり合いを持つことが分かってきた。それは、YG性格検査の特定の性格類型の競技者の情緒尺度（D；depression抑うつ性、C；cyclic tendency気分の変化、I；inferiority劣等感、N；nervousness神経質）にマイナス要因への変化が如実に反映されていることが分かってきた。言い替えれば、「心理的側面の変化を客観

的・科学的に捉えられるようになった。しかし、未だ明確な形で解明は得られていない。

そこで本研究は、これらの一連の解析をもとに、試合前後の情緒変化と競技成績との関係について明確に把握する目的で、平成23年12月21日～23日まで代々木第二体育館で開催された、平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼ロンドンオリンピック国内代表選考会でのK大学及び、OB選手について、同様の方法を用いて調査し比較検討した。

## Ⅱ．対象と調査方法

被験者は、各大会で予選を通過し平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼ロンドンオリンピック国内代表選考会に出場のK大学レスリング選手7名及び、K大学OB選手3名の合計10名を対象とした。

表1に、氏名、スタイル、階級、年齢、今回の成績、過去の成績を一覧表にして示した。性格特性を把握する目的でYG検査をK大学選手には約一ヶ月前、比較的にリラックスした時期に実施した。また、OB選手についてもほぼ同様の時期に実施

表1．平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼ロンドン五輪選考会  
K大学及びOB氏名、年齢、学年、階級、スタイル、今回の成績、過去の成績

氏名	年齢	学年	階級	スタイル	今回の成績	過去の成績
S.I	21	3	55kg	F	2回戦ベスト16	山口国体3位
H.O	23	OB	60kg	F	3位	天皇杯優勝
Y.K	21	4	60kg	G	3回戦ベスト16	インカレ3位
S.F	22	4	66kg	G	2回戦ベスト16	明治杯5位
K.K	21	3	74kg	F	2回戦ベスト16	国体2位
D.S	18	1	74kg	F	1回戦	JR1位 インカレ3位
Y.S	21	4	84kg	F	1回戦	天皇杯5位
Y.K	19	2	84kg	G	1回戦	大学グレコ3位
N.I	25	教務助手	96kg	G	1回戦	社会人2位
T.S	26	OB	96kg	F	2位	明治3位

F：Free style

G：Greco Roman style

した。情緒的变化については、階級によって試合日が異なることから実施日は異なるが、選手が減量の苦しみと、試合への不安が情緒変化として如実に反映されると推察される日時を設定し、軽量日前夜実施した（12月20日、21日、22日）。YG性格検査の実施方法、その処理方法などは先の報告の通りである<sup>1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 11)</sup>。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. レスリング選手の性格特性について

表2に、対象とした選手10名の性格類型比率をまとめて示した。

YG性格プロフィールの類型<sup>12)</sup>に準じ、得られた対象者10人の3回の性格プロフィールから2つの型に分類可能であった。その結果、D-Type（安定積極型）を示した選手が5名（50%）、A-Type（平凡型）を示す選手が5名（50%）であった。これらの結果から、

C-Type（安定消極型）、B-Type（不安定積極型）及び、E-Type（不安定消極型）はみられなかった。しかし、従来はD-Typeを示す選手が好まれるスポーツマン的性格であるとされてきたが、過去の報告ではD-Type（安定積極型）を示す選手の減少傾向がみられたが、これは生活環境の変化、時代の変化に相応して選手の内的側面において全ての性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確実に起こっていることを示していた。今回の対象者は、限られた人数での調査であったために、他の性格特性を保持した選手がみられなかったものと推察される。

#### 1. 情緒変化と競技成績との関係について

先の報告において、対象者全員の各尺度の平均値について検討を試み

たが各選手の特徴が相殺され事実の解釈が不可能であったことから、今回は各選手の特徴について、個々に考察することにした。付言すれば、今までの日本人的な発想の原点として、物事すべて平均的にみようとする発想（中庸の精神）があり、成功する例が多かった。しかし、世界の頂点に立つための知見を得るためには、この発想がかえってマイナスとなり、他とは異なった特徴的なものに注目する重要性が示唆される。そこで今回は対象者個々の特性について考察することにした。

#### D-型について

図1は、D-Typeを示した競技成績F（F：Free Style）96kg級2位、S,T選手のものである（表1参照）。選手の評価は、全日本のトップクラスであり、120kg級において優勝2回、世界代表選手である。その実力は高く評価されている。世界での戦いを視野に入れ、昨年のアジア大会日本代表、120kg級を棄権して96kg級に下げたの全日

表2. 平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼、ロンドンオリンピック大会国内予選出場者の性格特性のパーセンテージ

F：Free style	
右下がり型（安定積極型；D-Type）	5名（50%）
平均型（平凡型；A-Type）	5名（50%）

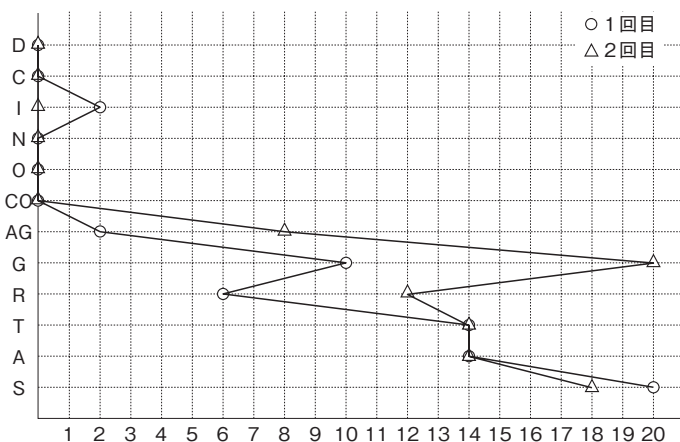


図1. D-Type フリースタイル96kg級T.S選手の結果

本挑戦である。情緒尺度については、相当の減量苦と戦ったと推察されるが、試合直前においてD尺度（抑うつ性）、C尺度（気分の変化）、N尺度（神経質でない）において情緒変化はみられず、I尺度（劣等感）においては減少がみられた。この結果、試合直前に情緒変化は示さず、むしろ試合に精神面の充実が図られたものと推察される。D-Typeを示す選手の情緒変化は少なく、持てる力を十分に発揮することが確認できる。この結果は、先の報告の支持するものであった。実際の場面での全日本選手権大会の決勝において、試合内容は均衡していたが両選手とも決定力を欠き取得点が得られず0-0から相手のクリンチホールド（ボールチョイス抽選で攻撃権を決定する）で敗れ優勝は成らなかった。付言すれば、昨年は120kg級からの約15kgの減量で未知の経験での戦いであったが、今回は自分の予定通りの調整ができたと言うことである。

図2は、D-Typeを示した競技成績2回戦敗退、F（F；Free Style）74kg級のK,K選手のものである（表1参照）。選手の評価は、高校時代から活躍し学生の大会においては常に3位以内に入るトップレベルの選手である。情緒尺度については、試合直前に情緒不安を示すD尺度（抑うつ性）、C尺度（気分の変化）、N尺度（神経質でない）大きくプラス要因への変化がみられ、I尺度（劣等感）の尺度のみ僅かにマイナス要因への変化がみられた。競技成績は2回戦において接戦での敗退であったが、試合内容は良好であり情緒的側面、即ち精神的側面は充実されていたものと推察される。このD-Typeを示す選手は試合に向けて

の精神面のコントロールは自己管理ができるものと推察される。このことは、先の報告を支持するものであった。

図3は、D-Typeを示した競技成績2回戦敗退、G（Greco Roman Style）60kg級Y,K選手のものである（表1参照）。競技成績2回戦敗退、選手の評価は、大学トップレベル、ジュニア世界代表、学生の大会においても常に3位以内に入るトップレベルの選手である。情緒尺度については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（気分の変化）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）らにおいて少々のプラ

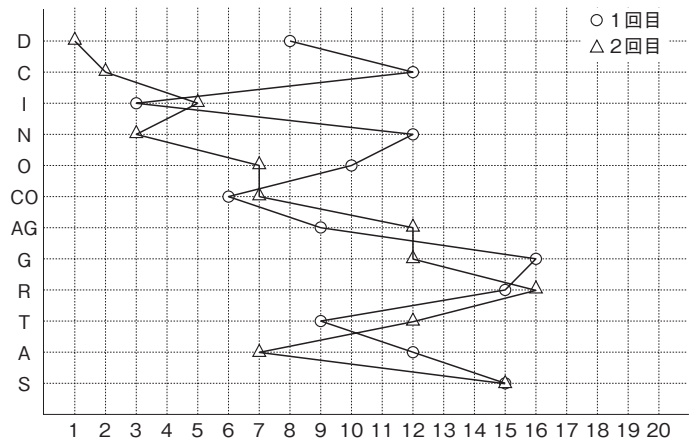


図2. D-Type フリースタイル74kg級K,K選手の結果

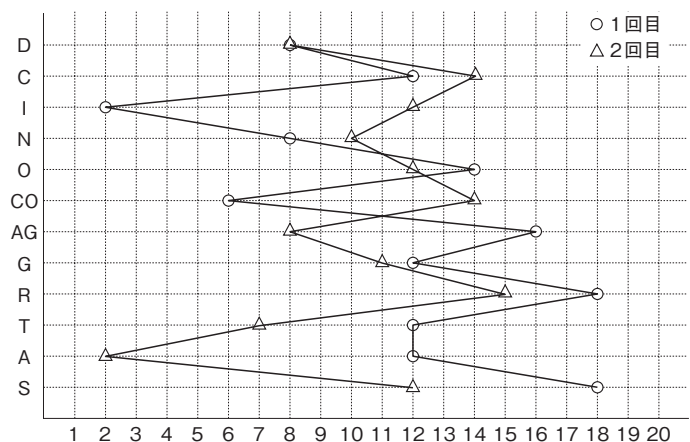


図3. D-Type グレコローマンスタイル60kg級Y,K選手の結果

ス要因及び、マイナス要因への変化が認められるが競技に影響を与えるものとは考えにくい。試合内容は、2位になった選手との対戦では、グレコローマンスタイル独特の大技での大量点を失点があり点差は大差で敗れたが試合内容接戦であった。今大会は国際ルールとは異なり、敗者復活戦が採用されないために順位を上げることはできなかったが実力はトップクラスである。

#### A-型について

図4は、A-Type示した競技成績3位、F (Free Style) 60kg級H.O選手のものである(表1参照)。選手の評価は、日本のトップレベルの選手で最もロンドンに近い選手と期待された選手である。情緒尺度については、試合直前に情緒不安を示すD尺度(抑うつ性)、C尺度(気分の変化)I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)の情緒不安定を示す尺度において大きくプラス要因への変化がみられる(図4参照、一回目○、2回目△)。過去の調査ではみられなかった現象であった。厳しい現実立ち向かう勝負師の内面が如実に反映され、オリンピックに掛ける選手の情緒的側面の全てが反映されたものと推察される。実際の場面では2回戦で今大会第一シード、北京オリンピック銅メダルに完勝、準決勝で優勝した選手と対戦し敗退、普段から対戦しているため精神面では充実した試合内容であった(コンディション不良が悼まれる)。

図5は、A-Typeを示した競技成績2回戦敗退、F (Free Style) 74kg級D.Sのものである(表1参照)。選手の評価、高校時代からのホープで将来を嘱望されている選手であ

る。情緒尺度について、試合直前に情緒の不安定を示すD尺度(抑うつ性)、C尺度(気分の変化)I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)において僅かのプラス、マイナスへの変化はみられるが、情緒的側面の動揺に影響するものでは無い。高校時代から幾多のタイトルを獲得してきた経験と大学生となって世界での戦いも経験したことで、試合前に気力の充実が図られ精神的なコンディションの調整ができたものと考えられる。実際の場面では、今大会直前の国際大会への参加、膝の手術などが重なりベストコンディションでなく善戦の末敗退したが、試合内容は良好であった。今回は国際ルー

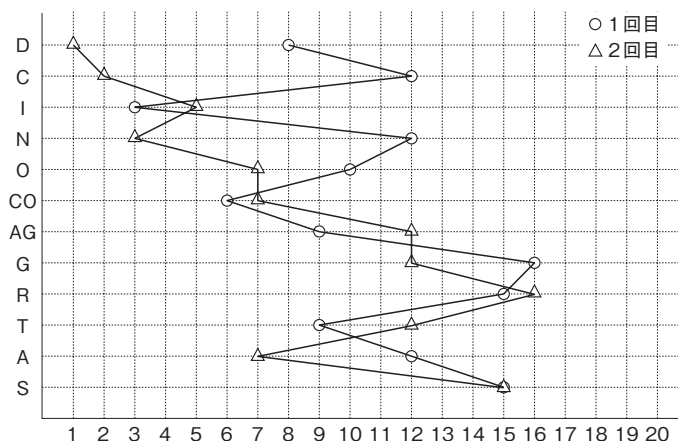


図4. A-Type フリースタイル60kg級H.O選手の結果

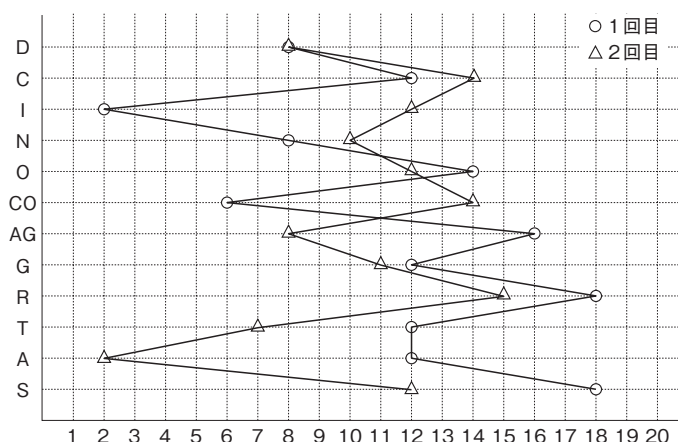


図5. A-Type フリースタイル74kg級D.S選手の結果



ルの敗者復活戦が実施されなかったことから上位進出はならなかった。

#### Ⅳ. ま と め

平成23年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場のK大学7名及び、K大学卒業3名、合計10名に対しYG性格検査を普段及び、試合前後に実施した。それらの性格特性プロフィールの結果から、D-Type 5名(50%)、A-Type 5名(50%)の2つの性格類型に分類可能であった。先の報告ではB-Type、E-Type、C-Typeを示す選手の増加の傾向にあったが、本報告ではこれらのTypeの選手は見当たらなかった。

D-Typeを示す選手は試合直前の情緒の変化がプラス要因に変化する傾向がみられ、競技成績も概して良好だった。また、試合直前の情緒変化は選手の性格特性に依存しプラス面にも、マイナス面にも反映することは先の報告を支持するものであった。

情緒的側面の変化がプラス面への変化を示した選手は好成績を納め、マイナス面への変化を示した選手の競技成績は概して不振であった。このことについても先の報告を支持するものであった。一連の報告から、典型的なスポーツマン的性格といわれるD-Typeを示す選手が大半であったが、昨今ではこのD-Typeの減少傾向に加え、全ての性格プロフィールを持つ選手の出現が顕著にみられることから、画一的な指導法では十分な成果は期待できないことを示唆していた。

#### 謝 辞

本研究は、体育学部付属研究所2011年度研究助成によって実施した。

#### 参考文献

- 1) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性（第1報）－試合前後の変化について－、国土館大学体育研究所報、第5巻、p31～37、1979
- 2) 滝山将剛・笠井達哉：スポーツマンの性格特性、国土館大学体育研究所報（第1巻）、p19～30、1980
- 3) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性－ロサンゼルスオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係－、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、p218～222、1980
- 4) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性－（第3報）ジュニア選手（18歳～20歳）の国際試合前後における情緒の変化と成績との関係－、国土館大学体育研究所報、（第2巻）、p91～94、1982
- 4) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第5報）－第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と競技成績との関係－、国土館大学体育研究所報、p206～209、1991
- 5) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化との関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、p277～279、1992
- 6) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第6報）、－1993年度世界選手権大会及び、エスポアール世界選手権大会における試合前後における情緒変化と競技成績との関係－、こぬ仕官大学体育学部研究所報、第12巻、p7～9、1993
- 7) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、p259～262、1994
- 8) レスリング選手の性格特性（第7報）－第21回内閣総理大臣杯大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係－優勝チームK大学の場合－、国土館大学体育学研究所報、Vo14、p11～14、1996
- 9) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性、（第8報）、－第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係－、国土館大学体育研究所報、Vo16、p63～68、1997
- 10) 滝山将剛：試合前後の情緒変化と協議成績との関係について－2009箱根駅伝におけるK大学の場合－、国土館大学体育研究所報、p43～48、2009
- 11) 滝山将剛他：レスリングの性格特性（第9報）、試合前後の情緒変化と競技成績との関係－平成21年度天皇杯レスリング選手権大会におけるK大学及び、大学院生の場合－、Vo17、p41～48、2010
- 12) 辻岡美延：YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978